教員 FD 活動レポート（基礎教育）H28 後期　まとめ　英語

**※　未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた集計結果です**



**※　以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）**

**A（問 1～10）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。**　①:あてはまる　②:ややあてはまる　③:あまりあてはまらない　④:あてはまらない

設問 1　シラバスに沿って授業を行えた。

①:39（81%）　②:6（13%）　③:2（4%）　④:1（2%）　未回答:0（0%）

設問 2　学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:32（67%）　②:16（33%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 3　話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:25（52%）　②:21（44%）　③:1（2%）　④:1（2%）　未回答:0（0%）

設問 4　重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:23（48%）　②:23（48%）　③:0（0%）　④:1（2%）　未回答:1（2%）

設問 5　学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:23（48%）　②:24（50%）　③:0（0%）　④:1（2%）　未回答:0（0%）

設問 6　受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:29（60%）　②:18（38%）　③:0（0%）　④:1（2%）　未回答:0（0%）

設問 7　受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した　等）

①:33（69%）　②:14（29%）　③:0（0%）　④:1（2%）　未回答:0（0%）

設問 8　授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:25（52%）　②:20（42%）　③:2（4%）　④:1（2%）　未回答:0（0%）

設問 9　総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:18（38%）　②:26（54%）　③:1（2%）　④:1（2%）　未回答:2（4%）

設問 10　シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:25（52%）　②:21（44%）　③:1（2%）　④:1（2%）　未回答:0（0%）

**B（問 11～15）：FD 活動についてお尋ねします。**

設問 11　この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　29（60%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　31（65%）

③他大学の FD 活動の視察：　7（15%）

④その他：　24（49%）

設問 12　今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　42（88%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　27（56%）

③他大学の FD 活動の視察：　20（42%）

④その他：　25（52%）

設問 13　昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、　回答：28 クラス（順不同）

[1] 自主的な学習の時間が少なかったため、授業時間外で個別に学習し授業時に確認する活動を取り入れた（部分的な反転授業）。・・・２クラス

[2] 発話のための基礎的な文法復習を導入した。

[3] 否定的なコメントがなかったので改善点は特にはない。肯定的なコメントに沿ったやり方を心がけた。

[4] 使用テキストが違うので一律の改善を論じることは無理がある（次項参照）。

[5] 授業外での学習課題と課題のピア・レビュー（毎時間に提出させた英語によるジャーナル、それを授業開始直後に相互に読み合い湖コメントを付す活動）

[6] ライティング中心で、全員が異なるライティング課題を選ぶため、他人の課題を丸写しすることを防ぎ、一人で課題を考えるようにした。・・・2 クラス

[7] 昨年度は通年で同じ学生を指導していたので、後学期における取り組み方は異なりました。

[8] 一見、無秩序に見えるらしいが、学生が全員、その時間の課題と到達目標を理解しており、目標達成に向けて行動している点が評価できる。・・・2 クラス

[9] 学生が自分は実際にどのぐらい英語を使えるのか着付きしていただくのため、留学生との交流を行った。・・・2 クラス

[10] 学生のニーズを更に掘り下げ、内容を具体化し、理解度をチェックできるクイズを準備した・・・2 クラス

[11] クラス全体に向けて行うグループ・プレゼンテーションを見直し、ミニグループ内のプレゼンテーションの実施に変更した・・・2 クラス

[12] 前回学生にとって少し難しい教材だったので、少し難易度を落とした。

[13] 前年度使用した教材が難しかったようなので、少し取り付き易い教材を選んだ。

[14] プレゼンテーションで使用される表現についての学習を促す、ネット教材提示と小テストを行った。・・・2 クラス

[15] 高校レベルの数学、化学、物理など、日本語で身に付けている知識を英語で学ぶことに特化した。

[16] 今年度はアメリカの大学の授業ビデオを用いた。アクティブラーニングとしては、ペーパーエアプレインのコンテストを行った。その結果は、ポスター発表を行った。・・・2 クラス

[17] 学生による授業評価ではあまり具体的な改善点が見いだせなかったのですが、自分自身の反省から、今年度はリーディングとスピーキングの時間を増やしました。また、学生にとっては単調な工業英語の暗記を、授業内で変化をつけながら覚える工夫をしました。

[18] 高校レベルの数学、化学、物理など、日本語で身に付けている知識を英語で学ぶことに特化した。

[19] 学生による授業評価ではあまり具体的な改善点が見いだせなかったのですが、自分自身の反省から、今年度はリーディングとスピーキングの時間を増やしました。また、学生にとっては単調な工業英語の暗記を、授業内で変化をつけながら覚える工夫をしました。

[20] 昨年度と同じコンセプトの授業だが、テキストを変えている。昨年度のテキストより分厚いので、読み終えるのは大変だが、興味をもてる教材である。

設問 14　自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：　38 クラス（順不同）

[1] Reading Project(学生が自ら英文記事を探し、解説を行う)は、概ね好評であるので今後も続けたい。そして、より充実させる方法を考えていきたい。・・・2 クラス

[2] ユニットが終わる毎に、小テストを実施し授業の定着を図った。・・・３クラス

[3] チャプターが終わる毎に小テストを実施し定着を図った。間違いの多い問題は、次の授業でもう一度説明をした。

[4] 授業外の学習時間の確保のため、個々で学習したものを授業時に確認する活動を取り入れた。（部分的な反転授業）

[5] 学生の興味を引くような題材を選び、多角的な学習をさせたこと。

[6] 授業に関する大学教師としての自己省察録を分析対象とした論文を執筆している。・・・2 クラス

[7] この科目は「発信型」（話す・聴く）を中心とした授業なので、毎回学生が英語で賛成・反対の意見表明が可能な話題が取り上げられているテキストを使ってきている。4 名程度の小グループに分けてディスカッションをして貰い積極的に参加させることを意図してやって来ている。今回の後期のクラスは、生憎 1 単元のページが多めで、少し全体で本文解説や練習問題の解答確認等に費やす時間が多くなって議論に寄り多くの時間を割くことが出来なかった点が反省である。

[8] 構成メンバーを３回変えてグループ活動をさせ、論理的に英語で発表させる、学生の主体的、能動的活動をさせたことで、談話構成を意識した英語によるプレゼンテーションの基礎力がついた点、学生間に新たな人間関係ができたことは大きな成果であった。

[9] 英語が苦手な学習者の特徴として音韻意識の弱さが一つの原因との考え方に立ち、音韻意識のトレーニングを取り入れてみた。音韻意識とフォニックスを取り入れてから重要単語のディクテーションを繰り返すことで、正確に発音できるようになった単語が増えた。・・・６クラス

[10] 授業のメイン活動であった「情報のマッピング」に関して、最初の説明や練習を十分に行わなかったために、最後までよくわからずに作業をしていた学生がいたことが授業評価アンケートによって判明し、深く反省しています。同時に、アンケートの重要性を感じています。

[11] 学生は授業を通して、英語で話すことが楽しめたと思います。・・・2 クラス

[12] 去年好評であった学内留学生との英語による交流会の実施において、より多くの留学生の参加が実現した。一方で、専門科目の試験日と重なる最後の 2 回分の講義では、３分の２ほどの出席に留まり、去年同様、改善されなかった。

[13] 学内留学生との英語によるグループ・ディスカッションの実施

[14] 授業内で留学生との交流を行い、実際に運用能力を試す機会を学生に提供することができたのは評価できる。

[15] パソコンを使用し英文を書くことで、複数の海外の看護を学ぶ学生と繋がることのできるプログラムは、学生の視野を一気に広げることのできるものだと思われる。

[16] 学生のパフォーマンスの評価を来年度以降はもっと具体化させたい・・・2 クラス

[17] チャプターが終わるごとに小テストを実施し定着を図った。また、文法ドリルも取り入れた。

[18] 留学生との協働クラスは、互いによい影響を与え合っているようだ。今後も日本人学生へのアンケート調査と留学生からのフィードバックを行っていきたい。　（各セメスターで行う留学生雇用のためのリクルート、個々の留学生との時間調整、その後の事務手続きの煩雑さについては、かなりの改善が必要である。）・・・2 クラス

[19] 今年度はアメリカの大学の授業ビデオを用いた。事前に内容の予習を課さらなかったため、何人かの学生から難しいというコメントをいただきました。今後の改善点としては、事前に単語と内容について、プリントを配り、勉強していただくことにする。・・・2 クラス

[20] 技術英語の語彙を増やすため、生徒達のモチベーション維持＝点数維持を意識して、やる気を起こさせるよう工夫して努めた。質問がある生徒、分からない生徒などがいないか、常に意識して確認をしながら授業をすすめた。何らかのペアワークを毎回の授業で取り入れ、必ず生徒が発話できる機会を設けた。

[21] 内容の濃いテキストを計画的に消化しようとしたため、学生にとっては消化不良の部分もあったようで反省しています。一方、今年度は、基礎英語力が不足している学生の補完学習を短時間取り入れました。学力の底上げまでは至りませんでしたが、授業取り組みの様子やアンケート結果などから判断して、英語への苦手意識を低減することができたのではないかと感じています。

[22] 当初シラバスで掲げていた進度具合とのズレが生じた。今後、授業計画を立てる際に考慮したい。その代わり、１つ１つのユニットを深く掘り下げ生徒達の理解度を深めたり、関連する内容で課題を行ったりした。

[23] 内容の多いテキストを計画的に消化しようとしたため、学生にとっては消化不良の部分もあったようで反省しています。一方、今年度は、基礎英語力が不足している学生の補完学習を短時間取り入れました。学力の底上げまでは至りませんでしたが、授業取り組みの様子やアンケート結果などから判断して、英語への苦手意識を低減することができたのではないかと感じています。

[24] 担当者は周到なシラバスを作り、毎回の課題も明確に設定し、WebClass を用いた学習経過の報告も行なわせようと計画していたが、この科目は選択科目であり、当初 3～4 名の受講登録者があったが、結局出て来なかったり受講を取りやめたため、受講生がいなくなったためこの授業は実施されなかった。学生達の意欲が問われると思う。

[25] 評価できる点は、よいテキストを選べたこと。ただし、ややむつかしめの英語だったこともあり、毎回の授業の進度が遅くなってしまったのが反省点である。

設問 15　FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：　なし

**C（問 16～18）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。**

設問 16　授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい：　47（98%）　　②いいえ：　1（2%）　　未回答：　0（0%）

**問 16 で「はい」の方は問 17、18 にお答えください。**

設問 17　下記のどの点を重視しましたか？（**複数回答可**）

①聞いて理解する：　32（67%）

②読んで理解する：　32（67%）

③自分の考えをまとめて話す：　31（65%）

④自分の考えを文章にまとめる：　28（58%）

⑤討論する：　21（44%）

⑥皆の前でプレゼンテーションする：　20（42%）

⑦その他：　9（19%）

設問 18　「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答：　36 クラス（順不同）

[1] 具体的な取り組み：学生一人ひとりが、選んだ英文記事をクラス全体で発表。コメントを書き、そのコメントにリプライする。・・・2 クラス

[2] 授業前後に学生に対し英語で日常会話をする。Power Point を使い英語で指示を出した。わからない学生は、授業後指示を確かめに来ていた。

[3] 授業前後に英語で話しかけコミュニケーションを図った。クラス中では、単語のクイックリスポンスでウォームアップをしたのち、文章のパラレルリーディング等を行いできるだけ声を出させるようにした。

[4] 知っておくべき単語を Quick Response し、テキストは CD を使いパラレルリーディングさせ、使えそうな表現はメモを取るよう指導した。

[5] 具体的な取り組み：グループ内で行う討論。英語におけるコミュニケーションで必要な文法や表現の学習。リスニングのトレーニング。

[6] 問14の通り

[7] 日本語を英語にするとき、主語と動詞を骨組みとしてしっかり設定するように配慮させた。・・・2 クラス

[8] グループ・オーラルプレゼンテーションを行った。作成に当たる作業にグループメンバーとのコミュニケーションを取れるようにの取組みがありました。・・・2 クラス

[9] 学生のレベルをふまえ、英語でのコミュニケーションを「正しく行う」ための基礎力養成に焦点をおきました。具体的には、ネットで英語の情報を検索し、それを自分の言葉（英語）で人に伝える、とう活動です。これによって、将来的に「自分の考えを誤りの少ない英語表現でまとめる」段階へと送り出すことができるのではないかと考えます。また、主にペア・グループワークの形式をとり、互いにフィードバックをし合うなどの協働学習を意識しています。・・・3クラス

[10] 英語で話すことのできる話題を増やすことに力を入れた。・・・2 クラス

[11] 留学生との交流し、異文化を理解することの取組みがありました。・・・2 クラス

[12] 学内留学生との英語によるグループ・ディスカッションの実施・・・2 クラス

[13] 毎回の授業冒頭、一人 2 分間英語で話し続けるというペア活動を取り入れた。また、期間中 3 回、グループでショートドラマを作り

（学習した内容を含む）、それをクラスで発表してもらった。最後の発表では、留学生を交えた意見交換を行った。

［14］ 具体的な取り組み：様々な文化で看護を学ぶ学生と、writing を通した交流を促した。（文法事項の確認と説明、便利な表現の説明）

［15］ コースの終盤を利用して、英語による「相手に響くグループ・プレゼンテーション」として、英語でパフォーマンスを実施させた

［16］ ミニグループのプレゼンテーション・・・2 クラス

［17］ 海外語学研修のため、3 週間ほどフィリピンに滞在する。現地のスタッフとのやり取りの中で常にコミュニケーションスキルを試されている。

［18］ ペア―または、グループで英語で質問をしあう時間を設けた。必要な場合は、Power Point で指摘し、定着するようリピートをかけた。

［19］ 最初に、知っておくべき単語を power Point で示し、リピートをかけた後、Quick Response で確認。テキストの CD を使ってパラレルリーディングをし声を出させた。使える表現は、メモを取り覚えるよう指示した。

［20］ 取り組みの内容：グループ活動（グループによる協働作業によるプレゼンテーションの実施）、プレゼンテーションを通した留学生との交流。・・・2 クラス

［21］ 正確に読める力の育成に特に注意した。

［22］ オーラルプレゼンテーションとポスター発表を取組みがありました。・・・2 クラス

［23］ 正確に読める力の育成に特に注意した。

［24］ Group work constructing English presentation to class.

［25］ 1）英語暗唱一回、2）感想発表（日本語）1 回を課した。特に、感想発表では、各発表にたいして、全体から一人を選んでコメントを求めることで、人の話を聞く力とコメント力の養成をおこなった。

**D（問 19～22）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。**

設問 19　授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい：　9（19%）　②いいえ：　28（57%）　未回答：　11（23%）

**問 19 で「はい」の方は問 20～22 にお答えください。**

設問 20　その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①１～５回：　7（15%）　②６～10 回：　0（0%）　③11～15 回：　0（0%）

未回答：　40（85%）

設問 21　「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（**複数回答可**）

①歴史・文化：　7（15%）　②政治・経済・産業：　2（4%）　③自然環境・フィールド体験：　3（6%）

④その他：　1（2%）

設問 22　「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：　6 クラス

[1] クラスの初めにグループに分かれ互いの地元の有名な場所や特産物について話し合わせた。

[2] グループに分かれ、出身地の紹介をさせた。・・・2 クラス

[3] 個人によるレポート課題（物事を時間的推移などの観点から比較した内容）を出したが、宮崎や自身の出身地に関する文化・人間・経済などに関すること英語でまとめさせ、学期末に提出させた。

[4] グループに分かれ、それぞれの地元の特徴を説明させた。・・・2 クラス